

季刊『寺楽』は東京都世田谷区北烏山の法華宗(本門流)

本覺山妙壽寺が発行する寺報です。

檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに  
広くお読みいただければ幸いです。

### 猿江別院地鎮祭報告

6月4日快晴の中、当山旧地江東区猿江の地において妙壽寺猿江別院建立のための地鎮祭が奉修されました。

当山総代で、建築の監修を務めていただく内田祥哉先生(写真左上)、三浦清史先生および総代、世話人代表、婦人会代表、また地元猿江稲荷社崇敬会の沼崎代表他の皆様、建築会社はじめ関係者50名余により厳かに行われました。明年秋の竣工をめざし、建坪40坪、3階建てを予定しており、1階本堂、2、3階は客室および展示スペースとして地元の皆様にもお使いいただけるように設計されております。

当山が大正13年に深川猿江から世田谷烏山に寺基移転して89年、本堂落慶30年の節目の年にこの新事業を行うことは、大きな意義と存じます。



本年3月、大賀蓮ご寄進の吉野家・河村家皆様と当住久美夫人による植え替え。7月には美しい蓮の花が開花した。

### 無縁社会と寺縁その12

宮崎駿の映画「風立ちぬ」を観ました。映画の冒頭、故郷から帰京直後に関東大震災勃発(本年は震災から90年)、主人公の行動やヒロインとの出会いが描かれています。これらのシーンを見ながら、当山先々代日照上人の半生を重ね合わせました。明治三十年代半ば、広島福山中農の次男が笈を負い、深川猿江妙壽寺に入門、明治末年に兄弟弟子の中から抜擢され、二十一代任職就任、三十代半ばに関東大震災に遭います。震災の火災で本堂庫裡が焼失中、弟子お檀家の奮闘により、宗祖のご本尊とご尊像を持ち出すことが出来ましたが、映画の中で、大八車で家財道具を運ぶ様子が描かれていますが、本所被服所跡に類焼し多くの犠牲者が出たことは悲しむべきことと言えます。さて平成の世も四半世紀を迎えておりますが、震災から敗戦の四半世紀、映画の主人公は飛行機の設計に没頭海外視察やロマンスを織りなす乍ら、サバの骨の曲線を取り入れた零戦の完成へと進みます。他方、日照上人は寺門の復興を期して、世田谷の現在地に寺基移転、鍋島子爵邸の移築、仮本堂建設を実弟石田天上人と共に推進するなか、宗門の宗務総監として、当時の朝鮮、満州、中国の邦人同朋の慰問や対外寺院の視察等を行っております。戦後のアメリカ大統領ホワイトハウス訪問と並び、人生のエポックメイキングでありましょう。主人公ジローと日照上人の時代、映画のサブタイトルにある「堀越二郎と堀辰雄に捧げる。生きねば…」という人生の体現に思いを巡らします。

鴉 鶴

### INFORMATION

(ご連絡・お申込は妙壽寺まで) 電話 03-3308-1251 FAX03-3308-7427

11月3日(日・祭) 宗祖御会式 日程予定  
門祖日隆聖人第550遠忌 10:30 稚児集合(永隆寺様)  
昭和本院落慶30周年記念法要 12:00 稚児練供養  
13:00 法要

### 天童稚児募集

- 11月3日(日・文化の日) お会式 集合時間午前10時30分
- 募集定員: 50名 (定員次第締め切り)
- 参加費: 1名6000円



### 妙壽寺 2013 秋スケジュール

9月23日(日) 秋の彼岸法要  
午前11時: 中日合同法要 初座・動物廟法要  
正午12時: 歴代墓所・正隆廟法要  
午後2時: 中日合同法要 第二座

### 正隆会

月例講 ご案内

当山では、毎月第2土曜日の午後2時より月例正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人などでも参加できます。例会は、毎月1時半より正隆廟前法要を奉修しております。

10月12日(土)	宗祖御会式御遠夜唱題行 勉強会「心が温かくなる日蓮の言葉」拝読 9
11月16日(土)	勉強会「心が温かくなる日蓮の言葉」拝読 10
12月7日(土)	年末三千遍唱題行 勉強会「心が温かくなる日蓮の言葉」拝読 11
1月11日(土)	初題目 勉強会「心が温かくなる日蓮の言葉」拝読 12
2月3日(土)	節分会・写経会
3月8日(土)	東日本大震災・東京大空襲追悼会 勉強会「心が温かくなる日蓮の言葉」拝読 13

### 正隆会 平島上人勉強会

平島盛龍先生(興隆学林教授・徳島妙典寺住職)による特別講義「日蓮聖人の御本尊について」が7月19日当山にて行われ、20名余の参加者が熱心に聴講いたしました。

御本尊とは「本門八品上行所伝の南無妙法蓮華経」で、末法のために釈尊が上行菩薩に託された教えであって、この御本尊によってのみ一切衆生は成仏できると示されました。

- 6月16日 富山誕生寺五五〇遠忌  
夏に向かって陽射しの強い中、門祖日隆聖人第五〇遠忌がその御誕生の地、富山県射水郡誕生寺において奉修されました。大御導師には法華宗管長・大本山本興寺貫首小西日遠下、並びに副導師三天本山御貫首小西日遠下、宗務総長台下、宗内僧侶五十余名、檀信徒百名余が参列して門祖日隆聖人の御報恩に題目を唱和いたしました。
- 6月22日 朝霞教会先代二三回忌  
朝霞教会にて開基信解院日聰上人第三回忌法要が相談役立正寺住職吉崎長生上人御導師にて奉修されました。供養席にて同上人の在りし日のお姿を偲び、なごやかな席となりました。
- 7月16日 当山孟蘭盆会  
前日までの猛暑から一転、過ごしやすいく気温となったなか、当山裏盆会施設鬼法要が奉修されました。組寺御住職等20名のお上人の御出仕をいただき、400名のご参拝を得て新盆水向供養等のご回向をいたしました。
- 8月15日 工藤久一郎総代逝去  
当山檀信徒総代工藤久一郎氏ご逝去、享年81歳(光徳院法照日久居士・逆修II平成20年法号授与)。22日通夜、23日葬儀には500名を超えるご会葬がありました。同総代は本堂再建後より総代として当山護持に御尽力を賜りました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

### つねまさ 一之輔落語×竹灯籠能「経正」

第3回目となる代々木果道会「竹灯籠能」に合わせ、初めての試みとして実力派噺家の春風亭一之輔による落語会が行われます。奮ってご参加をお待ちしております。

【第一部】一之輔独演会  
開演 12時45分  
【第二部】第三回竹灯籠能「経正」  
開演 15時30分  
日時 平成25年10月5日(土)  
開場 12時~18時頃終了  
会場 妙壽寺 本堂  
入場料 (全席自由)

一部・二部通し券 一般6500円 学生4000円  
一部のみ 一般、学生共に 2000円  
二部のみ 一般5000円 学生2000円  
※学生は40歳未満の方で、学生証を提示してください

チケットのお申込み・お問合わせ

電話 03-3370-2757 (代々木果道会)  
受付時間 平日 10:00~16:00  
E-mail info@yoyoginoubutai.com



### KUGENJIMA & SAN FRANCISCO 鶴沼・桑港から

7月23日 猛暑のなか、二十余名の檀信徒にて孟蘭盆法要が奉修されました。法要に先立ち、渡部憲吾師(宗務院書記)による法華経と孟蘭盆会のご法話がありました。

8月21日 恒例の伊東海施餓鬼が奉修されました。はじめに伊東駅近くの楠山家御宝前において施餓鬼唱題行、昼食供養の後に伊東港より乗船して日蓮聖人伊豆法難の聖地、俎岩にて水供養唱題行を行いました。



### 客殿訪問記

6月29日、夏の風物詩を日本に住む外国人家族と一緒に学ぶ「七夕ワークショップ」(主催:和なびジャパン)が開かれ、40名が来山。



昨年引き続き第2回目となり、当住上人の歓迎挨拶の後、浴衣姿の子供たち全員と握手を交わしました。その後、七夕の由来を学び、短冊の飾り付け、境内の竹林散策、盆踊り、スイカ割りなどで楽しみました。

本堂落慶30周年記念インタビュー

大野典也先生（東京慈恵会医科大学名誉教授）前編

聞き手 当住上人 三吉廣明（平成25年3月14日 アクティクリニック）

introduction 若き日のニューヨーク訪問は人生転機の旅

本日は、妙壽寺の檀家総代でもあり、当山住職三代にわたりましてご指導いただいております大野典也先生にお話を伺いたいと思います。
実は、私の母堂（智覚院日恵尼上人）は昭和56年に亡くなっており、母堂の七回忌までは海外へは行かないと決めておりました、七回忌を終えた61年に、念願の米国へ出かけました。昭和26年に先々代の大僧正日照上人が当時のトルーマン大統領に献上した法華経と平和の親書を拝見するため、ミズーリ州インディペンデンスのトルーマン・ライブラリー&ミュージアムを訪れました。
その前に、大野先生のお父様のご法事で、先生と初めてゆっくりお話をさせていただいたときに「ニューヨークに住むので、ぜひ遊びにいらっしやい」とお誘い下さり、そのことは本当に昨日のことのように覚えております。当誌『寺楽寿』の前身となる『鳥山信報』に私の旅行記を掲載しております。（以下、一部抜粋）

昭和61年3月25日に成田から出発して、ニューヨークのニューアークに到着し、当山のお檀家で慈恵会医大教授並びにハーバード大学客員教授の大野典也先生のお宅（ニュージャージー州リッジウッド、マンハッタンまで車で40分）に滞在した。その間、先生とモダンアートを、また、奥様の牧子夫人とメトロポリタン美術館を一日がかりで見学させていただきました。かねて美術には興味があり、本物を実感でき、また、日米の芸術展覧の差異を痛感致しました。さらに、ニューヨーク各所を見学させていただき、ミュージカルなどにもご招待いただきました。そして到着翌日、日本より学会出席のため来られていた分子生物学の泰斗、渡辺裕慶大名誉教授をケネディ空港で大野先生がお見送りの際、ご紹介いただいたのには感激致しました。

私の人生の中で、このさらに6～7年前の大学生の頃に、サンフランシスコの大叔父石田日天上人を、また、ロサンゼルス的小澤恵壽上人（日照上人御弟子）を訪ねるといふ旅行を2度ほどしていましたが、私にとって若き日にニューヨークで大野先生を訪れたのが人生転機の旅で、カルチャーショックでした。
あのときは、いろいろおもしろい話もあって、先生は「お上人にはそんなところへ連れて行ってはだめだ」と奥様におっしゃったのですが、私は奥様に懇願してワールドトレードセンターの屋上に乗ったのです。9.11（2001年アメリカ同時多発テロ）のことを考えると、本当に残念に思います。5年前に跡地再開発前に訪し、お経を上げて追悼回向して参りました。（文中敬称略）

大野家と妙壽寺のご縁

三吉 先生、大野家と妙壽寺との関係を簡単に先生からお話を伺いたいと思います。とりわけ題目会とお母様、そしてお母様の「信仰や、「孟母三遷の教え」という言葉がありましたが、先生が学生時代にいろいろお家を移られて先生に最高のご教育をされたことなどは、お母様は、2年ほど前にご逝去になられたが…。

大野 私の母は、「すな」と申しました。金子先生（知正金山院日壽上人・題目会開創）の題目会（現在は井上浩延上人開基による京都福知山市先延寺・旧日本題目教会）に縁あって参加させていたとき、鳥山の日照上人に知己を得てからのご縁です。お上人には、私共の住まいの秩父（埼玉）まで



1994年（平成6）ボストンでの大野先生（後列右端）と牧子夫人（前列右端）。ドクター・キフ、ドクター・ケイメンのご一家と共に

三吉 志されていたのです。
大野 当時は新聞記者の志望者に留学の枠というのはほとんどなかったんです。理学系や経済学とかの、日本の復興のために直接役立つ人材育成が最優先で、新聞記者なんか必要ないというふうな三吉 お兄様は確か昭和31年にサンフランシスコ日蓮教会でお亡くなりになって、大叔母（石田日天上人内室・石田千代子）が御遺骨を日本にお持ち帰りになられたんですね。
大野 はい。その兄は英語が得意でして、日比谷高校からアメリカンスクールへ転校して、アメリカンハイスクール卒業と同時に直接アメリカへ留学しました。



大野典也先生

三吉 東京のアメリカンスクールですか。
大野 はい。当時、中目黒にあったアメリカンスクールです。卒業した時点で直接サンフランシスコ・シテイカレッジに入学し、石田日天上人には保証人になっていただき、さらにサンフランシスコ日蓮教会に住まわせていただき、そこから大学に通いました。日天上人はじめ、ご家族の方々には大変お世話になりました。兄が留学できたのは妙壽寺さんのご縁です。その兄が志半ばで亡くなってしまったので、母はますます信仰に精進しました。三吉 お兄様が日比谷高校に通っていたというの、例のワンちゃん一匹と青山の土地75坪を交換したという話がありますね。秩父で亡くなられたお父様が戦前から猟犬を飼っておられ、それを東京の地主さんが戦後すぐにどうして欲しいと言われ交換したという話（笑）。お兄様はその青山の家から通学されていたのですか。
大野 そうですね。私の父は大変な趣味人で、お茶を、書を愛し、秩父に浜田庄司（陶芸家）を紹介したり、冬はハンティング、夏は鮎の釣りといったふうで、戦前、英国のポインター犬をモントローズ伯爵から分与されたりして、お兄様もその血統の仔犬を土地と交換したわけなんです。三吉 先生も後年、お住まいになられた。
大野 結局、子供たちを教育するには東京だということ、その青山に家を構えて、兄は日比谷高校姉は青山学院、私は青南小学校に4年生から通いました。これもご縁だったと思っております。三吉 今の紀ノ国屋スーパの裏手だそうですね。本当は表通りと言われたのをお母様が騒がしいからと、参道に面した所だつたら大変でしたね（笑）。大野 表通りというか、参道沿いの、「ここか、ここか」と聞かれて、そうしたら中側のほうが静かだ、いいだろうというので（笑）。さらにこの仔犬の他に父は銃を5、6挺有しており、レミントン銃をつけてくれば、隣接の300坪の土地をと言われたそうですが、父はこの銃を手放さないと断つたそうです。三吉 今では、考えられないですね（笑）。物の価値というものは家外そのものなものでしょう。現代はお金の力が強くなりすぎたように思います。三吉 そういろいろいろいろご縁をいただいて、私も、先生のご息お三方さんともお近くさせていたたくようになって、今日、「三男さんは妙壽寺で結婚の挙式をされるというご縁も頂戴したわけですね。

日米の医療の相違点

三吉 先生にお世話になった私のニューヨーク体験の後に、実はもう一つあります。今度はボストンの家にお伺いする機会を得て、そのときも大変な経験をさせていただきました。先生と共同研究されているハーバード大学ダナファーマシー研究所のキフ教授にお引き合わせいただき、お食事しました。

当時、大野先生はがんの研究のほかにHIVの研究をされており、時にカプセルのようなものを持ち帰り、奥様が中身を伺うと「そこにHIVの菌が入っているよ」と、それはすごい（笑）。ということもございました。ニューヨークとまた打つて変わってボストンという街の中で、これは有名な話ですが恐らくアメリカ中の街のどこかで、この話を聞かざるを得ない大学が250校程あるそうですね。大野 そうですね。街の人口の6割は学生、教師など学校関係者といった感じの街です。三吉 半徑何キロかの間（ボストン市総面積232.1km<sup>2</sup>）に250校の大学がある。八王子はどんなに多くたって20、30くらいですね（笑）。ボストンではいろいろなお話をいただき、日本でも慈恵会医大の、今も校舎が残っていますが、本院の研究棟に随分お話をさせていただきました。先生からいろいろご交話をいただくなかで、特にありがたく思っていることは、あるご婦人が婦人科系のがんに罹れて、私としてはちょっとご縁が遠い方だったんですが、先生にご紹介してご相談に乗っていただいたことがありまして。その後にお礼に上がったときに、いやあ私としてはちょっとご縁が遠いのでどうかという言葉を先生にお話をしたら、「いや、お上人、そうじゃないんですよ」と。「自分たちは国からお金をもらって研究している。つまりこれは税金を使って研究しているの、その分、やはり自分たちはタックスペイヤー（納税者）の方たちにはできることはさせていたたくのが自分たちの義務なんだ」と。私、もうこれは感動を通り越して涙が出る思いがしました。ボストンに伺ったとき、奥様がこういうお話をされました。ノーベル生理学・医学賞を受賞された利根川進先生ご夫妻をお正月におせち料理をつくったのでお招きしたが、おられないとお断りされた。なぜかという、利根川先生は大量の書類をつくらなければいけない。それは国の機関に研究費を申請するためだそうなんです。アメリカの大学は教授自ら研究費を集めてマネジメントをしているそうです。大野 先生はその時に、「20年ぐらいすると日本もそうなる」とおっしゃっていましたね。今日日本では行政法人は独立行政法人になり、みんな苦労していますね。先生の長いご経験の中で、日米の医療、行政も含めて相違点を教えていただけました。大野 結局、アメリカの社会というのは、先ほどお話しされたように科学研究費というのはあくまでもその中心は税金なので、それはタックスペイヤー、国民に還元しないといけない。業績は個人のものであると同時に国のものなんです。ですから研究ノートなんて持ち出してはいけないんですよ、全部が所属している大学が所有しているんで、欲しければそのコピーをとって日本へ持って帰ってもいいけど、時々間違えて研究したものを日本に持って帰るとして空港で捕まっていますね。日本人は自分で研究したものは、自分のものと思っております。その辺が根本的に大きく違う。それから大きく違う点は、今でもそうですが大学の給与というのは、いわゆる私立大学で有名大



三吉廣明上人

学という、ハーバード、イェール、コロンビア、あるいはプリンストン大学では、教授の月給は給与の25%ぐらいしか大学は払わなくて、研究費は自分で稼がなくては行けません。稼いだ中の約4割は大学が上をばねるといいます。6割は自分が使つてよくて、4割は大学に納めなくては行かないというシステムになっています。人材を雇う場合、給与の2倍の資金を用意して大学に納めると、これでは健康保険、失業保険、年金プランを準備していません。三吉 施設使用料のようなものですね（笑）。大野 そうそう（笑）。そこでよく頑張るドクターは電気も水道も大量に使う、だから使用料が多いんだと。月給の高いほど使用料も高いんです。月給の少ないのはあんまり使わないだろうと、安いんですよ。そういう運営がされています。日本もだんだんそういう雰囲気になってきて、科学研究費とか何か業績次第であるというふうになんかだんだん変わって来ますが、アメリカでは非常にその辺は顕著ですよ。それで、やっとならへ来て今度 NIH（National Institutes of Health、アメリカ国立衛生研究所）構想のようなものを安倍内閣が提示され、文部科学省と厚生労働省とを一元化して、がん研究は一本化しようという構想がやっとなら出てきました。アメリカでは昔から NIH です。また、アメリカでは正教授に定年という制度はありません。大学に出ているうちにいつまでも地位は保証されています。激しい競争を進めていく生活がしんどくなつたら、自分でリタイアを決めます。三吉 ああ、そういうことですか。大野 それが研究費も行政もすべてを一本化しているわけですが、日本では大学の研究は文科省が、病院は厚生省、大病院というところは非常に不思議なところで、半分は文科省の支配で半分は厚生省の支配のようなんです。しかしアメリカは NIH、日本という厚生省でしようか、衛生省ともいえますが、そこが支配していて、研究費も何もかも、健康絡みのことはすべて行なう、その辺が縦割りの違いはございます。三吉 すぐ想起しますのは、お寺さんはよく幼稚園を経営しているんですが、今度は保育園をと思つて調べてみると、幼稚園は文科省だけ、保育園は厚生省が管轄です。大野 教育に関するものは、文科省なら文科省で一貫し担当する。児童の福祉は厚生省にお任せすればいいのに、現状はなかなかお互いの権益を譲り合えない、といいますか。三吉 そうですね。大野 長い歴史の結果そうになっているんでしょうけど問題ではありません。三吉 十何年前に私が会員だったハマーショルド・クラブという勉強会で、大野先生を講師にお願いした時のお話で、爬虫類の脳みそはプライオリティが縄張りとおっしゃってられました。大野 縄張りですね。縄張りというか、アグレッションですね。あつ、攻撃というか、アグレッションですね。爬虫類は、だから戦をしたり縄張り争いを司る脳です。やぐさの脳と言っているんですけど（笑）。その上に哺乳類が乗って、その上に人間の脳が乗るんです。人間の脳新皮質の脳で、芸術、創作活動とか、理性や宗教を司るのです。その下に哺乳類の脳で、異性を愛するとか母親が子供を可愛がる。最下層に爬虫類の脳があります。それが縄張りとか、また人智で対応の困難な時、親しい仲の方との対応は儀式で根本の脳を鎮めるしかないのです。

ご葬儀はこれから生きていく、残された方に力を与える儀式なのだと思います。古来から生物が生存に向けて編み出した方法が儀式なのです。動物から魚、昆虫に至るまで儀式を用いて同種族の生存を託しているのです。攻撃とか戦争をやったりするのは儀式のしるしです。各種の儀式は人類の文明が生み出した問題解決の智恵だと思えます。人間が社会生活を営む上で「挨拶」は大切なことです。三吉 なるほど。非常に興味深い話ですね。

臍帯血による治療とは

三吉 先生には、平成14年に妙壽寺で法華宗開宗七五〇年記念講演として、再生医療に関する「近未来の医療」をご講演いただきました。確かそのときに、先生は慈恵会医大の教授を退職後に医療にかかわる諸事業で、臍帯血の治療に取り組まれました。その辺りを伺いたいと思っております。大野 臍帯血の研究は1990年（昭和55）頃から始めました。臍帯血中の細胞は血液以外に、多能性の幹細胞（ステムセル）が多量に含まれており、すばらしい能力が含まれています。このステムセルで脳神経系の再生とか、脳性麻痺の治療も可能です。将来的には各種の再生医療も可能となります。1999年（平成11）頃からこの貴重な臍帯血を保管する施設を設立いたしました。妙壽寺でお話させていただいてから10年後の2003年（平成15）に脳性麻痺のお子さんをお救いすることが実現できました。日本のお子さんも救うことができます。アメリカがやはり先に実施しており、日本のお子さんでも臍帯血が保管してあれば、脳性麻痺という一生障害児で過ごすことになるはずが、ちゃんと治るといふことを証明しました。三吉 臍帯血については、当時は知っていた方は少なかったでしょうね。今は大分、先生のご活動とかがあつて広く知られるようになりましたね。大野 そうですね。ですから10年前に「近未来の医療」と言ってお話したことが、この診療所もそうですが、ここまでに10年前に開発していたテクノロジーで、実際には患者さんのがんを撲滅するのはまだですが、がんが苦しんでいらつしやる方をお助けするとか、役に立つようになってきましたね。三吉 臍帯血の件では確か2年ぐらい前ですか、例のノースカロライナのデューク大学でお子さんの臍帯血からその赤ちゃんと移植することによって脳性麻痺が治つたと報道されました。大野 脳性麻痺のお子さんが治ると。三吉 治るといふ実証ができたというお話で、それはもう画期的だと思いましたが。大野 はい。その後、私、高知大学の特任教授という形で高知大学と一緒に組んでその辺の研究をさせてもらっています。本年7月には東京の学術センターで、「臍帯血による再生医療研究会」第1回全国集會を開催することができました。三吉 はい、実現してきました。（次号へつづく）

Profile おおのつねや 大野典也 先生 医学博士。1965年東京慈恵会医科大学卒業。コロンビア大学医学部がん研究所研究員を経て、1979年同大学教授に就任。1981年東京慈恵会医科大学第一細菌学教授兼任。1983年ハーバード大学医学部客員教授に就任。1994年東京慈恵会医科大学DNA医学研究所初代所長就任。東京慈恵会医科大学名誉教授、高知大学医学部特任教授。2012年アクティクリニック（03-5733-4705）を開院。